

呉で輝く若者たち



スマホやタブレット端末でQRコードを読み取ると動画を視聴できます。



vol.119

よしだ こうへい
吉田 康兵 さん

プロフィール

38歳。理学療法士。川尻地区在住。今年5月、訪問看護リハビリステーション「relief（リリーフ）」を広地区で起業。呉青年会議所の地元リンク推進委員会 委員長。特技はフレイル予防にもいいけん玉で、教室も開催。

「高齢者の安心と、笑顔あふれる暮らしを支えたい」
そう話すのは、今年5月に訪問看護リハビリステーションを立ち上げた吉田康兵さんです。
「医療・介護の仕事は、人出不足などの課題が多くあります。この仕事の価値を自分自身がさらに高めたいと思い、起業を決めました」と話します。

吉田さんは病院勤務で、理学療法士として管理職を経験。その際、縁あって呉青年会議所に所属したことが、今回の起業を後押ししたと言います。
「メンバーは呉のまちに熱い気持ちを持った人ばかり。大きな刺激を受けました」と振り返ります。

5月に立ち上げた事業所では、理学療法士の吉田さんがリハビリなどの日常支援を担当。医療処置が必要な看護業務は、所属する看護師が対応し、高齢者のニーズに応えています。

「住み慣れた地域で最後まで生活したいという人が増えており、私たちのような在宅支援の役割は以前より大きくなっていると感じます」と話します。

看取りに近づいた利用者がいる場合は、かかりつけ医、本人・家族、ケアマネジャーと今後の方針を共有し、在宅か入院などの選択を調整します。

「最も身近に関わる立場だからこそ、その意見をまとめるのも私たちの仕事です」と吉田さん。

「看取りに関わる中で、人の人生に寄り添えたという実感がありません。ご利用者様やご家族に信頼してもらい、大切な時間を任せてもらえる。そのやりがいをもっと多くの人に知ってほしい」と微笑みます。

呉青年会議所で、呉の若きリーダーたちと切磋琢磨しながら、自身も呉の医療・介護を支える一人のリーダーとして、従業員が安心して働ける環境づくりに力を入れている吉田さん。従業員の安心は利用者の安心にもつながるとの考えから、積極的なコミュニケーションを心がけています。

「従業員の皆さんの意見に耳を傾け、それぞれの考えや価値観を業務に落とし込めるようにしています」と教えてくれました。

事業所名の「リリーフ」は「安心」を意味する言葉から名付けられました。

医療・介護の現場で、吉田さんが大切にしてきたその「思い」は、少しずつ呉のまちに、そして、人々の心に広がっていきます。



▲フレイル予防や「安心」の大切さを伝える吉田さん



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています

■再生紙を使用しています
■QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です

10 言語対応「市政だより くれ」デジタルブックで配信中！



- ブラウザでもアプリでも、スマホやタブレットで読める
- 文字サイズを調整できる
- 動画や写真も楽しめる
- 10 言語で読める・聞ける（音声読み上げ対応※）



【対応言語】

日本語、英語、中国語（簡体字・繁体字）
韓国語、タイ語、ポルトガル語（ブラジル）
スペイン語、インドネシア語、ベトナム語
※ベトナム語は音声読み上げに対応していません。



・ブラウザ版は音声読み上げには対応しておりません。音声読み上げには、無料アプリ（カタボケバ）のインストールが必要です。